

# 令和6年産米の需要に応じた生産推進の徹底について

令和6年 1月23日  
埼玉県農業再生協議会

令和5年12月26日に開催された埼玉県農業再生協議会臨時総会において、令和6年産米の埼玉県の「生産の目安」及び「水田農業作付ビジョン」を策定いたしました。

令和6年産米の埼玉県の「生産の目安」については、本県における令和6年産の需要見通しをもとに算定し、数量で138,929トン（前年比△102トン）、面積で28,160ヘクタール（前年比△125ヘクタール）とお示したところです。

また、令和5年産米の作付実績については、関係機関、生産者の積極的な取組により、「生産の目安」を大きく下回る結果となり、民間在庫量は減少し、相対取引価格も回復基調にあります。

しかしながら、主食用米の需要量が毎年10万トン減少（全国）している中で、需給の安定傾向は一時的なものであり、中長期的な需給均衡、米価の安定を図る必要があります。

このため、下記のとおり、改めて直近の米をめぐる需給環境及び今後の見通しと対応についてご連絡しますので、ご理解の上、米の需要に応じた生産に向け、より一層の推進をいただきますようお願いいたします。

## 記

### 1 直近の販売の概況

#### (1) 民間在庫数量（令和5年11月末時点）

埼玉県内 34,400ト（前年 ▲8,300ト、80.6%）  
全 国 3,040,000ト（前年▲260,000ト、92.1%）

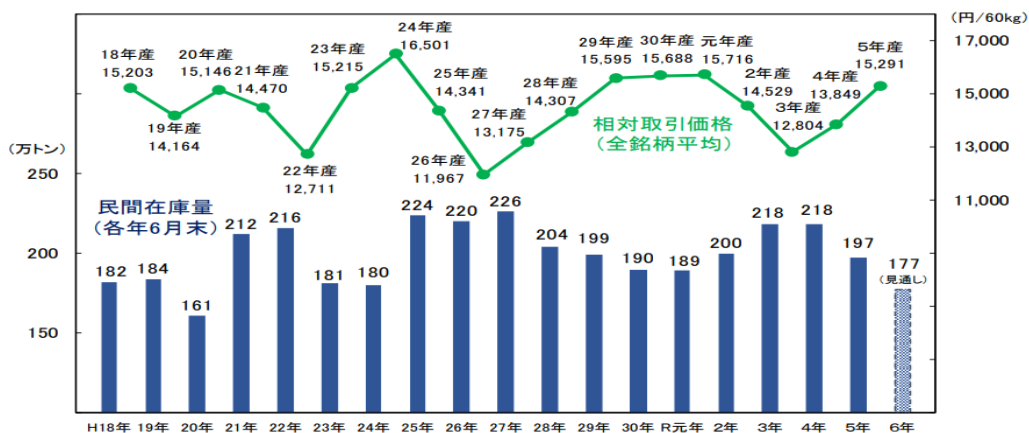
※農林水産省「米に関するマンスリーレポート」より

#### (2) 相対取引価格（税込み）（令和5年11月末時点）

全銘柄平均 15,201円/俵（前年+1,357円/俵）

※農林水産省「米に関するマンスリーレポート」より

#### (3) 相対取引価格と民間在庫量の推移



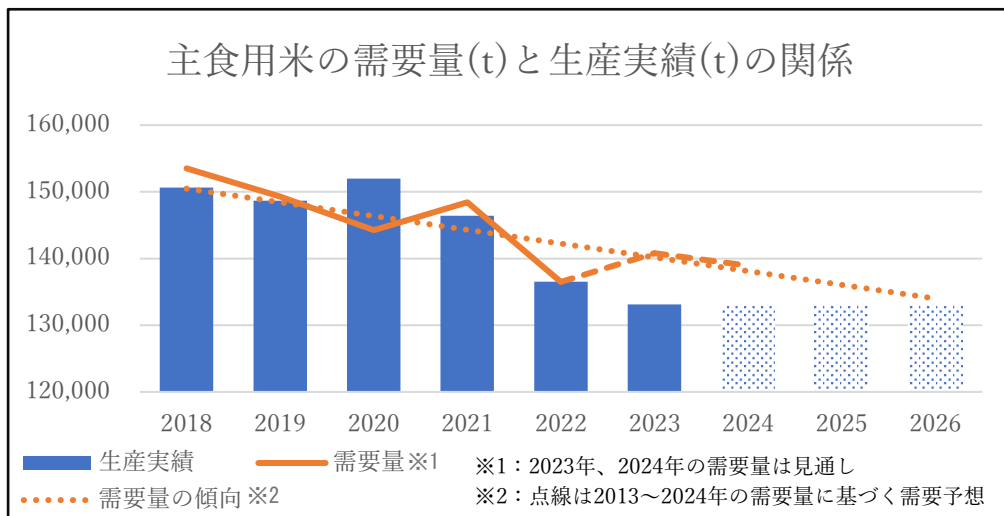
※農林水産省「米をめぐる情勢について」より

## 2 作付転換の徹底について

「令和6年産埼玉県水田農業作付ビジョン」に示すとおり、基本的な方針として、「生産の目安」の面積を確実に達成した上で、計画的な作付けに取り組むようお願いします。

毎年約10万トン減少するという主食用米需要の実態を踏まえると現在の作付実績を維持するだけでは、近い将来、生産量が需要量を上回ると見込まれます。

各地域農業再生協議会におかれましては、令和6年産の作付転換はもとより、5～10年後を見据えて水田農業の収益力を強化するという視点で、定着性の高い需要のある作物（麦・大豆・飼料作物・高収益作物等）への転換を検討してくださるようお願いします。



担当：埼玉県農業再生協議会事務局  
全農さいたま米麦部米麦課  
JA埼玉県中央会 JA支援部  
農政・広報・組合員組織担当  
埼玉県農林部生産振興課主穀担当